

## 飛び立つ勇氣

毎年我が家にはかわいいお客さんがやって来る。それは「つばめ」だ。小学校のときに自由研究でつばめの観察をしてから気にするようになった。また、家族の会話の中にも、「今日は何羽生まれました?」「目が見えるようになったよ」「頭の毛がかわいい」など、自然とつばめの話題が増えるようになった。

そんなある日、巣立ちが間近になったのか、親がエサを運んでこなくなった。そして巣立ちの日、六羽いるつばめのうちの五羽が、巣から飛び立ち、近くの電線や屋根にとまっていた。でも、残りの一羽はまだ巣の中にいる。飛び立つのが怖いのだろうか。兄弟や親つばめが一生懸命に呼びかけたり、巣の周りを飛び回ったりしても、「ピーピー」と答えるように鳴くばかりで巣から出てこない。とうとうみんなはどこかへ飛んで行ってしまい、一羽だけになった。「エサが欲しい」と叫んでいるように聞こえる。でも誰も来ない。丸一日、一羽はひとりぼっちだった。次の日も親と兄弟たちは一羽を励ますように飛び回っている。何日もエサを食べていないこの一羽はもうダメかもしれないと私は思った。その時、一羽は巣の中で固めるように縮めていた羽を広げて巣から飛び立った。時間にすれば一瞬だったけれど、「生」と「死」の中にいて、「生きる」だけでなく、自ら決断した「生きぬく」を感じた瞬間だった。私は小さなつばめが「生きたい」と強く思い、巣から飛び立つ勇氣を奮い立たせて、「飛び立つ」という「生きぬく力」に変えたんだと思った。

私は毎日を生きている。でも生きぬいているだろうか。今年、自分の進路や目標を考え、今までずっと一緒だった仲間の所から飛び立たなくてはならない。自ら決断し、どうしたらいいのか、つばめのように「生きぬく力」を身に付けて頑張ろうと思う。

あの飛び立ったつばめは親兄弟の所に元気に飛んでいった。そして喜びを分かち合うように「ピーピー」と鳴きあっていた。